

<p><b>1 学校教育目標</b></p> <p>「生き抜く力」を育む指導をとおして、生徒一人ひとりの優れた資質を伸ばし、経済社会の発展に寄与する有意な人材の育成を目指す。</p>	<p><b>2 本年度の重点目標</b></p> <p>① 思いを力に～ひたすらに～をスローガンとして、体系的なキャリア教育を実施し、将来を見据えた進路意識の向上を図る。                  ② 基礎学力の定着を図り、部活動や校外活動を通して、望ましい社会性を育成する。                  ③ 自尊感情を高め、元気な挨拶や端正な服装、ルールやマナーを守る態度を育成する。                  ④ ICT活用や国際交流を通して、広い視野を持った生徒を育成する。                  ⑤ 「ひまわりプロジェクト」を通して「命」と向き合い、ボランティア精神を涵養する。</p>
---	--

達成度 A: ほぼ達成できた  
 B: 概ね達成できた  
 C: やや不十分である  
 D: 不十分である

**3 目標・評価**

①体系的なキャリア教育を実施し、将来を見据えた進路意識の向上を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○進路指導	進路指導体制の充実	・全職員に進路についての関心を持ってもらう。	・企業訪問や作文指導など、進路以外の先生方にもかかわっていただく。 ・学校説明会やキャリア教育講演等を知らせる。 ・業者による模試や適性検査、進路希望調査の結果等、生徒に関する情報を知らせる。	B	・進路指導部と3学年年団と協力して訪問、再編に伴い職員減になった場合、訪問数をいかに維持するかが課題。 ・訪問内容等については、共有フォルダに入力することで共有化を図った。 ・作文指導を全職員に分担したことで、小論文対策指導を国語科の先生に専念してもらうことができた。作文指導に関しては、きちんと指導が行き届いたのか検証が不十分。 ・業者による模試や適性検査、進路希望調査の結果等は、進路でまとめて各担任の先生等に伝えた。また、業者からの見方等の説明会を実施することができた。ただ、学年をまたいでの情報提供が不十分であった。	・1、2学年年団にも企業訪問を分担する。訪問して感じたことをクラスの生徒に話してもらえば、早い段階からの進路意識向上につながる。 ・共有フォルダだけでなく、学年主任を通して、学年会で伝えていく。 ・添削指導後の作文の回収。 ・共有フォルダの使用も考える。
		勤労観・職業観の育成と進路意識の向上	・各学年に応じた内容の実施。 ・「働く覚悟」をつけさせる。	・学年主任と連絡を密にし、実施したい行事を実現していく。	B	・各学年主任と相談しながら、LHRや総合的な学習の時間を計画的に実施することができた。	・本年度、3年間を見通しながら、次の学年につながるよう企画してきた。来年度も学年主任の先生方に様々な講座等の情報を伝え、協力を仰ぐことで、より良い内容にしていく。
		ビジネス実践力の向上	・現場での実習を通して、ビジネス実践力を向上させる。	・3年次授業において現場実習を取り入れることで、学習の深化を図り、将来のスペシャリストの基礎づくりを行なう。 ・外部講師の講義により、専門分野の業界状況を把握させるとともに、社会で求められている人材を理解させ実践させる。	B	・「課題研究」のそれぞれの講座で現場実習、または現場実習に類する内容の取り組みを行い、現場の生の声を得られ、生徒のモチベーション向上につながった。週に1日、午後2時間であるため、場所、企業、内容等に限られることが課題である。 ・「キャリア教育事業」で行う外部講師を越えての授業は、最新の技術を学ぶ講座や、地域密着型の企業の経営者の話など、内容を見直したことで今の生徒に必要な話を聞かせることが出来た。	・長期休業中などを使ったインターンシップ等を計画する。 ・今後も外部講師の授業の内容および講師を常に見直し、生徒に必要な内容とする。

②基礎学力の定着を図ると共に、部活動や校外活動を通して社会性を育成する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	わかりやすい授業の実践	・わかる授業のための指導方法の改善や工夫に努め、実践する。	・教科内研究、授業研究会を実施する。 ・少人数指導や習熟度別指導などを取り入れ、個別指導を充実させる。	B	・少人数指導や習熟度別指導を取り入れることで、生徒の実態に合わせたきめ細やかな指導をすることができた。	・基礎的な学習活動充実のために少人数指導を活用している場面が多いが、より高度な学習指導にも生かしていく。
		学習効果高めるICTの活用	・学習者用パソコンや電子黒板の有効活用を推進し、授業で電子黒板・学習PCの未使用率を65%以下にする。	・教員会議を定期的に行い、教員全体でICT機器を活用した教科指導方法を研究する。 ・5～10分の動画を見るだけの、簡単手間いらずの授業活用を紹介する。	B	・教科以外のホームルーム活動や総合的な学習の時間などでの活用が増えている。 ・教科の特性もあるが、ICT機器利用頻度は教科ごとにばらつきがある。	・ICT機器の有効な活用場面を各教科等で検討し、情報共有できる場面を設定する。
学校運営	●教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	職員研修の充実	・授業でのICT利用が少ない教科や教員に、はじめの一步を踏み出してもらう。 ・すべての教職員が2回以上の研修を受ける。(情報モラル研修を含む)	・ヘルプデスク支援員等による個別研修を充実させる。準備が簡単で授業で使える教材を紹介したり、教員の要望を聞きながら支援員が教材作成の支援をする。 ・年間を通じての個別研修と、長期休業期間の希望者研修を実施する。	B	・ICT機器の有効活用について、職員間での情報共有が行われている。 ・ヘルプデスク支援員とも相談し、授業での活用の場が増えている。	・授業研究会の共通のテーマとして取り上げ、ICT機器の活用についてさらに意識を高めていく。
		○教職員の資質向上	教科指導力向上にむけた取組み	・教師が自己研鑽に努め、「わかる授業を実施する」という意識を深めることで、生徒の学習意欲を向上させ、生きる力と豊かな人間性を育てる授業を実践する。	・6月と11月を授業力向上月間として、他の教諭の授業参観と話し合いを通して、授業力向上のきっかけとする。 ・校外での授業参観や研修への参加を奨励する。	B	・今年度は授業参観の視点から案内をしたことで、それぞれの教諭のねらいをもって参観することができ、参観数が増えた。 ・11月の参観者数が少なかった。

③自尊感情を高め、元気な挨拶や端正な服装、ルールを守る態度を育成する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	
教育活動	○基本的習慣の確立	心身ともに健全な生徒の育成	・学校行事や全校集会などでの定時集合完了を目指す。 ・校門指導などにより、挨拶の励行及び学校の基本ルール、マナーを遵守させる。 ・地域に信頼される学校づくり	・集会などを通じ、心の教育を行う。 ・外部講師による研修会を実施し、他者に対する配慮や集団で生活するマナー・ルールの必要性を説く。 ・学校外での挨拶の徹底 ・新高校に向けて地域に愛される学校づくりの推進	B	・集会を通じた心の教育を行ってきたつもりであったが、SNSでの誹謗中傷の書き込みや他者に対する軽率な行動が見られた。 ・薬物についての研修を民間団体をお願いし、生々しい実態を生徒に聞いてもらったのは効果的であった。 ・学校でのあいさつなど年々良くなっているが、全生徒の浸透にはまだまだ不十分である。	・集会では生徒指導主事以外の先生にも積極的に発言してもらい、様々な観点から生徒に伝えるべきであった。外部からの苦情も減り、落ち着いた学校生活が過ごせている。ただ、自転車マナーを考えると、イヤホンをつけ音楽を聴きながらの運転や、スマートフォンの画面を確認しながらの運転などの依頼については、生徒への案内や協力を募り、ボランティア活動についての意識の向上を目指し、学校全体で取り組んでいく。	
		○生徒指導の充実	端正な服装・頭髪	・服装や頭髪を整える意味を理解させる。	・月一回の服装頭髪指導を実施する。 ・再検査および継続指導の徹底のため、毎週月曜日の継続指導を施す。	C	・服装検査も、月1回の検査で生徒も職員もマンネリ化してきた感じがある。日頃の指導徹底を全職員に呼びかけ、そのリーダー的存在にならないといけない。継続指導についても、中途半端で毎週月曜日に生徒指導で対応できなかった。対応自体に継続性がなかった。	・服装検査の時だけでは、服装検査を実施しないことも改善策の一つである。決められた日に行われる行事でなく、日々の生徒指導はルールを守らない生徒に対して全職員で取り組む必要がある。
		●心の教育	思いやりの心の育成	・自己と他者との違いを理解し、互いに認め合う心を育成する。	・人権講話等を通して、意識の向上を図る。	B	・まだ不十分であるが優しい生徒が増えてきたような気がする。	・講話や研修で職員の専門性も高める。

④ICT活用や国際交流を通して、広い視野を持った生徒を育成する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○異文化交流	異文化への興味関心	・姉妹校である青岩高校と交流し、国際交流事業の継続及び充実を図る。	・青岩高校(韓国)への訪問を継続し、異文化理解や語学研修を実施する。来年度以降の交流方法についても青岩高校と具体的に検討する。	B	・本年度も青岩高校へ訪問することができた。参加生徒は、訪問前に事前に調べ学習を行ったり事前研修(韓国語講座)に参加するなど、積極的に取り組み、実際の訪問時にも有意義な交流を行うことができた。来年度は予算も少なからず、交流方法を検討しなければならない。	・来年度は予算が少なくなることから、これまでと同様の交流は難しくなる。参加人数や費用、宿泊場所、交流の方法などについて具体的に検討し、できる限り多くの生徒に交流の機会を与えていきたい。

⑤「ひまわりプロジェクト」を通して「命」と向き合い、ボランティアの心を育成する

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	
教育活動	●心の教育	○ボランティア精神の育成	復興支援活動による豊かな人間の育成と社会貢献	・被災地への思いを風化させることなく、その思いのこもったひまわりを栽培することで命の大切さを考えさせる。	・被災地よりいただいたひまわりの種を全校生徒で大切に育てる。また来年に向けて新たな種を採取する。さらにこの活動を各地域へ発信することでその輪を広げる。	B	・生徒会役員を中心として、全校生徒で役割を決め、種まきや水やりなどを計画的に進めることができた。これからはボランティアについての意識を高め、募金活動や介護施設など、積極的にボランティアに関連する活動を行っていきたい。	・JRCや地域ボランティア等、生徒会役員以外の生徒の参加を募集したところ、多くの生徒の希望があった。地域からの依頼については、生徒への案内や協力を募り、ボランティア活動についての意識の向上を目指し、学校全体で取り組んでいく。
		教育相談体制の充実	・クラスに馴染めない生徒や問題を抱えた生徒の支援を充実させる。	・スクールカウンセラーと協力体制を取りながら、教員間の共通理解を図る。 ・担任会、ケース会議等で情報を共有し、支援体制を整える。	A	・継続的なスクールカウンセラーとの面談で、生徒の情報を収集することができ、その後の支援に大変役立っている。ケース会議等で情報の共有、支援内容を確認ができ、支援体制は整ってきている。	・特別支援の観点からもケース会議を開き、教科担当者間の情報の共有、支援体制を強化していく。	
		心の健康づくり	・心と体の健康維持のための助言・支援を行う。	・全校集会などで命の大切さや思いやり等をテーマに指導する。	B	・学期ごとに健康相談を継続的に行っていたが、健康維持、病気の予防についての意識は依然として低い。個別に相談してくる生徒もいるが、全体的に意識を高めていく必要がある。	・継続的に健康相談をしたり、HR等で保健だよりを活用した指導を行ったりすることで、健康に関する知識を高めていく。	
		●いじめの問題への対応	いじめの早期発見・対応	・他者に対する思いやりの心を育成し、いじめのない学校生活を目標とする。	・いじめアンケートを学期1回実施し、情報の共有を図る。	B	・いじめアンケートの実施及び本人等からの訴えにより覚知件数8件、認知件数1件となっている。学年を中心に情報交換する機会を多く設け、情報の共有を図り対応していった。	・コミュニケーション力、自己理解、他者理解を向上させるため、スクールカウンセラーによる演習授業の内容の充実。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	健康の自己管理	・疾病予防や健康の保持増進を理解し、自ら実践できる能力を育成させる。	・健康診断で健康状態を把握しながら予防・受診の指導を行う。 ・保健だよりの発行、保健講話を実施し健康に関する知識を習得させる。	B	・再検査及び治療の勧奨を年2回実施しているが、治療報告書の提出は30%に満たない。 ・毎月の保健だよりの発行はできた。集団感染率を見ると、病気の予防、健康に関する知識習得までは達成できていない。	・保護者面談等でさらに個別指導を行う必要がある。 ・ホームルーム等の時間を使って、保健だよりに目を通す時間を設定できると健康に関する知識習得につながると思われる。
学校運営	○情報化と校務の効率化推進	情報の共有化	・調査報告や生徒情報を、全職員で共有する。 ・校内LAN、SEI-Netを有効活用する。	・校内ネットワークやSEI-Netメール・メッセージ機能を活用する。 ・出席統計、指導記録、各種試験成績、生徒情報などを職員間で共有したり、職員間の連絡を校内LANやSEI-Netで行う。	B	・校内LANやSEI-Netが定着し、職員間での情報共有はスムーズになってきている。	・朝の日課表への連絡事項入力呼びかけ、朝ホームまでの時間を有効に活用していく。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

本年度の重点目標の5項目について、全体的には概ね達成できている。特に学校生活や人間関係で支援が必要な生徒に対するサポートでは、校内での支援体制が整ってきており職員間の情報共有が出来た。また、スクールカウンセラーの継続的な支援やスクールソーシャルワーカーなどの専門家との連携も機能している。今後は特別支援の観点からのケース会議を開き、教科担当者間の情報共有を図り、支援体制の充実を進めていく。

課題として、重点項目②「基礎学力の定着を図ると共に、部活動や校外活動を通して社会性を育成する」では、「わかりやすい授業」の推進を目指す。また、基礎学力の確実な向上を目指し、朝の学びの時間を設定し生徒の理解度に応じた学習に取組み、全体的な引き上げを図っていく。

重点項目③「自尊感情を高め、元気な挨拶や端正な服装、ルールを守る態度を育成する」では、徐々にではあるが指導の意図が生徒に理解されてきている。しかし、定期的な服装指導時と日常生活の違いがまだまだ見受けられ、生徒および職員にもマンネリ化が見受けられる。その都度粘り強く、全職員で対処していくことを確認し指導に当たっていく。

重点項目④「ICT活用教育や国際交流を通して、広い視野を持った生徒を育成する」では、(韓国)青岩高校との国際交流が、本校のリーダーとなる生徒の育成につながっている。今後は訪問以外の交流方法を検討し、少しでも多くの生徒が海外に目を向けるきっかけとなる取組みを行っていく。

社会人となるための準備期間として、高校時代に確かな学力や身だしなみ、規範意識を身に付けることの大切さをいかに理解させるかが課題である。早い段階で、将来や学校でのビジョンを持たせるため、全職員で体系的なキャリア教育を推進する。